
魔皇物語

天龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔皇物語

【Nコード】

N4639BA

【作者名】

天龍

【あらすじ】

大魔皇になって世界を支配していく物語。

プロローグ（前書き）

初めて小説なるものを書くので文章表現力の稚拙さは多少大目に見てくだされば幸いです。

プロローグ

神暦666年 6の月

悪魔生誕の地である此処、アンダーエデンに新たな命が産れた。

その命こそ、のちに世界を支配する大魔王ヤマトである。

彼は生れながらにして絶大なる力を秘めていた。

彼の両親である現魔王ゼノンとその妻アイラはヤマトの誕生を大いに喜び、盛大なる宴を七日七晩催した。

そんな国中が祝賀ムードの中、不穏な動きを見せる謎の集団が魔王城に近づいていた・・・

「こちらセラ。現在A地点にて待機中。標的がいると思われる魔王城まで距離およそ1000。」

「了解。現状のまま待機せよ。」

奇襲

謎の集団は少しずつ魔皇城との距離を縮めていた。

「こちらファイ。現在C地点にて魔皇城周辺の警備状況の確認中。人数を把握次第また連絡する。」

「了解。警戒を厳に。」

謎の集団が近づきつつある魔皇城では宴が続いており、城内にいる者たちはみな既にできあがっていた。

無論、警備兵たちも例外ではなく頬をを真っ赤に染め気分良く酔っていた。

「こんな時に敵が襲ってきたらまともに警備なんてできねーな。」

「だな。まあ、この程度の酔いで敵にやられる俺様じゃないけどな。ハッハッハ。」

各持ち場にいる警備兵たちも、まともに仕事ができる状態ではなかった。

それに、こんな時に敵などやって来る筈が無いという考えが更に警備に対する意識を低下させていた。

その頃、現魔皇ゼノンと妻アイラは我が息子ヤマトのことについて話をしていた。

「まさかこれほどまでに強大な力を持つて生まれてくるとは、さすが我が息子。将来はこの私をも超える大魔皇になるだろう。」

「本当になんて禍々しい力なのかしら。どんな魔皇になるのか今から楽しみだわ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4639ba/>

魔皇物語

2012年1月14日05時45分発行